

ベチバー植え 赤土流出防止

【久米島】久米島のきれいな海を守ろうと清水小学校(高良政幸校長)の子どもたちが13日、赤土流出防止のグリーンベルト設置にさわやかな汗を流した。町、WWF(世界自然保護基金) ジャパンなどが主催した。

島で2カ所目となる町兼城の長井宗順さんのサトウキビ畑の周囲に、環境にやさしいとされるベチバー(イネ科)450束を「久米島の海を守る会」や「ほと

久米島・清水小児童ら

るの会」、地域住民ら約150人と共に植栽した。写真。

国立環境研究所・サンゴ礁学事務局の浪崎直子さんが「久米島の自然を守る働きを全国に発信しています。2年後成果を確認しましょう」とあいさつ。平良朝幸町長も駆け付け子どもたちを激励した。苗提供はNTCコンサルタンツ。植栽

作業に先駆け、子どもたちはWWFジャンの安村茂樹さんから「サンゴと人のかかわり」など事前学習を行い、知識を深めた。作業後、長井紫苑さん(6年)は「サンゴやそこにすむ生き物を守っていきたい」と感想を述べた。

(比嘉正明通信員)

